

フレイジオロジー研究会 サークュラー

No.2

フレイジオロジー研究会第2回例会の案内と発表要旨

2010年7月30日

発行: 関西学院大学 八木克正 kygi@kwansei.ac.jp

第2回例会を下記の通りに開催します。ご出席をお待ちしております。海外の学会の動向の報告、心理言語学からのチャンク研究、定型表現の研究、テキスト分析の研究のように、多様な内容になっています。

日時：9月26日（日）午後1時～午後5時

場所：関西学院大学梅田キャンパス 1005 教室

1. 「phraseology と辞書学の動向」

前置き：八木克正（関西学院大学）

「北米辞書学会、Euralex2010, Europhras 2010 の報告」井上亜依（防衛大学校）

「Europhras 2010 の報告」住吉誠（摂南大学）

2 磯辺 ゆかり（関西学院大学大学院）

「高頻度語連鎖の心理的実在性と言語処理の効率性について」

3. 王海霞(Haixia Wang)（北京第二外国語学院）

“Formulaic phrase *the thing is*”

4. 甲斐雅之（京都女子大学）

「Travel-guide text における主題の展開について」

発表の終了後、2011年2011年3月5-6日開催の第3回例会について協議します。今のところ、第3回例会には、ポーランドと中国から講師を招聘し、シンポジウムなどを考えています。

発表要旨

1. 八木克正（関西学院大学）、井上亜依（防衛大学校）、住吉誠（摂南大学）

「phraseology と辞書学の動向」

今年は、北米辞書学会(DSNA)、Europhras 2010 大会、ヨーロッパ辞書学会（Euralex 2010）が開催された。これらの学会で発表したり、参加した会員から、報告を聞く。この報告の概要は、後日、サーキュラーにも掲載する。

2. 磯辺 ゆかり（関西学院大学大学院）

「高頻度語連鎖の心理的実在性と言語処理の効率性について」

高頻度の語連鎖はメンタルレキシコン(ML)内で一つの語彙項目として格納・検索・処理されている可能性が L1 および L2 の先行研究により示唆されている。単一の表象を形成した「語彙」として存在する高頻度の語連鎖は、全体的処理が行われる為に、その処理負荷が低くなると考えられる。本研究では、日本人 EFL 中級学習者の ML 内における高頻度連鎖の心理的実在性と言語処理の効率性について検証を試みた。

3. Haixia Wang（北京第二外国語学院）

“Formulaic phrase *the thing is*”

Formulaic phrase *the thing is* is variously used in spoken discourse and it is multifunctional. It may serve as either a comment clause or a discourse marker. In the former case, *the thing is* has scope over the following proposition and it is primarily evaluative and reinforcing. As a discourse marker, *the thing is* is applied more globally, working on the level of discourse. It is textually significant, which may function as a cohesive device, signaling sequential discourse relation, or a hesitation filler, signaling discourse continuation. The relationship between the comment clause use and the discourse marker functions of *the thing is* will be analyzed with regard to grammaticalization.

4. 甲斐雅之（京都女子大学）

「Travel-guide text における主題の展開について」

Travel-guide text という特定ジャンルの形式のテキストがどのような性質を持ったものかについて示したうえで、Travel-guide text に特徴的な Topic の展開パターンについて明らかにしたい。その際、Travel-guide text における動詞や構文の用いられ方に関して、小説などの語りのテキストなどとの相違点に留意しながら、具体的に用例の検討を行う。